

業界初！ 自動精査現金バスを開発

～ 現金バスの管理を機械化し、オペレーショナルリスクを軽減 ～

【概要】

この度弊社は、金融機関の営業店舗において大量現金の入出金に対応するため、帯封紙幣・包装硬貨を保管するキャビネット“現金バス”の有高管理等の自動化を業界で初めて実現しました。現金の出し入れ等、操作履歴の自動記録や、機内の現金有高を常に監視できる自動精査現金バス「BW-700」を、平成 21 年 4 月 1 日より販売いたします。

平成 19 年にバーゼル銀行監督委員会より新 BIS 規制*1 が導入され、金融機関の自己資本比率の算出に関わるリスクにオペレーショナルリスク(以下、オペリスク)が加えられました。オペリスクとは、金融機関における事務手続き上の事故、システム障害、不正行為などで損失を被るリスクのことで、オペリスクが高いほど自己資本比率の低下を来すため、金融機関では業務の厳正化が課題となっており、適正な事務手続きの徹底や、機械化によるミス防止等の対策が進められております。

例えば、オープン出納機は、現金の計数ミスの防止はもちろん、カードや暗証番号による操作者の認証、従業員の業務内容に応じた操作内容の権限設定や操作履歴管理等、業務の効率化だけでなくオペリスクの軽減に効果を発揮することから、多数の金融機関で導入されています。

オープン出納機に収まりきらない帯封紙幣・包装硬貨等の現金は、現金バスと呼ばれるキャビネットで保管・管理され、その都度担当者が開錠し、出し入れを行います。保管現金の有高の精査は手作業で手間がかかり、ミスの恐れもあるため、担当者の心理的負担やオペリスクが課題となっております。

この度開発の自動精査現金バス「BW-700」は、待機中は常に電磁ロックで施錠され、現金を出し入れするには、操作を許可された担当者が ID カードや暗証番号で開錠します。操作者を認証することで、誰が・いつ・どんな操作をしたかを自動で記録します。

また、機内の現金有高を常にセンサで監視しているため、実際に出し入れした現金と入力した金額データに差異が生じると、警告ブザーを鳴らし、ミスを防ぎます。手作業で行っていた有高の精査も不要となり、業務の効率化と厳正化が図れます。

新たに自動精査現金バス「BW-700」をラインアップし、オープン出納機と併せたさらなるオペリスク低減に向けた提案を行い、拡販に努めてまいります。

*1 新BIS規制(バーゼルⅡ)

BIS 規制とは、昭和 63(1988)年にバーゼル銀行監督委員会によって提言された、金融機関(国際基準行)の自己資本比率規制のことで、平成 19(2007)年 3 月から改訂実施された基準は新 BIS(バーゼルⅡ)規制と呼ばれています。

新 BIS 規制は、①最低自己資本比率規制、②金融機関の自己管理と監督上の検証、③市場規律、の 3 つの柱から構成されています。

最低所用自己資本比率の算出は、「リスクに対する所用自己資本」に対する「自己資本」の割合で算定され、国際統一基準行(海外営業拠点を有する金融機関)は 8%、国内基準行は 4%とされています。新BIS規制では、従来の信用リスク、市場リスクに加え、オペレーショナルリスクが加わりました。

【特長】

1. 電磁ロックによる自動施錠

本製品は電磁ロックにより施錠され、入出金時に必要な収納庫だけを開錠し、作業終了後は自動施錠するため、不正操作を防止します。

2. 個人認証で操作者を限定、操作履歴管理も簡単

機械の開錠は、ID カードや暗証番号による個人認証で行うため、操作者を限定できます。また、いつ・誰が・いくら入出金したか、操作記録を残すことができ、業務の厳正化をサポートします。

3. 機械内の有高を自動精査

内蔵のセンサで、保管した帯封紙幣、包装硬貨の数量を自動精査。従来、手作業で行っていた計数の自動化を実現。業務を効率化し、さらに管理を厳正化します。

4. 機械単体での運用も可能

運用スタイルに応じて、BW-700 を単体で利用することも可能です。オープン出納機接続時と同様に、操作者の限定、操作履歴の管理、現金有高の管理が可能です。